

VIVO

12

DECEMBER 2006

CONTENTS

水戸室内管弦楽団第67回定期演奏会	1~3
水戸室内管弦楽団第66回定期演奏会	
まもなくです!	4
クリスマス・プレゼント・コンサート 2006	4
アートタワーみと スターライトファンタジー	
第11回クリスマス・コンサート	5
水戸の街に響け!300人の《第九》	5
速報:吉田秀和水戸芸術館館長、文化勲章受章!	5
最近の公演から	6、7
プチ情報	7
インフォメーション	8



写真上・左:小澤征爾MCO音楽顧問 上・右:児玉 桃
下:水戸室内管弦楽団

ジュピター、ピアノ協奏曲第23番 そして細川俊夫の新作日本初演。 数多の話題を携えて、小澤征爾音楽顧問、華麗に復活!

12 / 7(木) 8(金) 9(土)水戸室内管弦楽団第67回定期演奏会

9月2日、水戸室内管弦楽団(以下MCO)定期演奏会のチケット発売日。早朝からたくさんの方が並ばれ列をなし、みなぎる熱気の中で9時30分のチケット発売を今か今かとお待ちになられていました。どれほど多くの方が、この瞬間を待たれていたことかを感じ、スタッフ一同胸が熱くなる思いでした。そう、第67回定期演奏会は、過労による休養から復帰した小澤征爾MCO音楽顧問が、ふたたび私たちの前にその雄姿を現すのです。

プログラムは、この「復活」を祝うにふさわしい豪華絢爛な内容です。このところ小澤音楽顧問がMCOと共に継続的に取り組んできたモーツァルトの音楽が、やはり今回も中核をなします。しかも今年は、モーツァルトの生誕250年。今年、コンサートホールATMで実施してきた数々のモーツァルト演奏会の、大団円にしてクライマックスであると申せましょう。

まず、交響曲第41番 八長調 K.551《ジュピター》。モーツァルト最後の交響曲であり、もはやあらためてご説明申し上げるまでもない記念碑的な傑作です。小澤音楽顧問はすでにモーツァルトの「後期六大交響曲」のうち、5曲までをMCOと演奏していますが、ジュピターを最後にとっておき、しかもモーツァルト生誕250年の今年に演奏するとは、なんと心にくいではありませんか。MCOはすでにジュピターを2回(第20回定期演奏会:1994年11月19日、20日。指揮はルドルフ・バルシャイ。および第48回定期演奏会:2001年11月24日、25日。指揮はトレヴァー・ピノック)演奏していますが、もちろん前2者とまた違う解

釈のジュピターが楽しめるはずですよ。

ジュピターは演奏会後半に演奏されるメイン・ディッシュですが、前半演奏される2曲も、豪華さにおいてまったくひけをとれません。まず、深い悲哀の念に満たされた第2楽章が有名なピアノ協奏曲第23番 イ長調 K.488。モーツァルトのピアノ協奏曲の中でももっとも人気の高いもののひとつであるこの曲が、MCO史上初めて演奏会のプログラムに上るのです。しかも、独奏は児玉桃。フランスを拠点とし、若い世代の日本人ピアニストの中でも、その鮮烈な響きの造型によってとりわけ強い個性の輝きを放つ、大活躍中の俊英です。小澤音楽顧問からも深い信頼を得ており、何度か共演しています。芸術館にはこれが初登場になります。

すでにこれだけで十分な豪華さですが、さらにさらに話題は続きます。前半、児玉桃が独奏を務めるもう1曲の作品は、現代日本を代表する作曲家の一人、細川俊夫の新作「ピアノとオーケストラのための『月夜の蓮』」モーツァルトへのオマージュ。今年の4月に、児玉桃のピアノと準・メルクル(MCO第66回定期演奏会を指揮)&北ドイツ放送交響楽団によってドイツで世界初演されたばかりの、出来たてほやほやの新作です。そしてこれが日本初演なのです!

細川俊夫の作品は、水戸芸術館では1992年2月に、『磯崎新1960 / 1990 建築展記念コンサート 宮田まゆみ 笙リサイタル』で鳥たちの断章 & および うつろひ、また99年の『シュテファン・フツソング アコーディオン・リサイタル』で

SEN が演奏されていますので、お聴きになられた方もいらっしゃることでしょ。聴き手の想像力を刺激する豊穡な音世界はきわめて魅力的で、国際的にも高い評価を受けています。今回演奏される月夜の蓮は、北ドイツ放送の委嘱により、モーツァルト生誕250年を記念し、彼の協奏曲となんらかの関係を持つように作曲する、という指定のもと書かれました。細川氏が選んだモーツァルト作品はピアノ協奏曲第23番。詳しいことは、この後に掲載した細川俊夫氏へのEメール・インタビューをご覧ください。細川氏は現在、ベルリン高等学術研究所のフェロー(特別研究員)としてベルリンに滞在中ですが、多忙な活動の合間を縫って、ていねいな回答をくださいました。これは月夜の蓮をこれから聴く方への最高のテキストです!

月夜の蓮は、ドイツでの初演同様、細川氏に靈感を与えたモーツァルトのピアノ協奏曲第23番に続いて演奏されます。現代を生きる作曲家がモーツァルトから、どのような刺激を受け、新たな作品世界を創造したか。「過去の大作作曲家」というだけでなく、現代に生き、未来への手がかりとなるモーツァルトの姿を、ここで感じていただけることでしょ。ドイツ初演に続いてこの日本初演でもピアノ独奏を務める、児玉桃さんへのEメール・インタビューも敢行しましたので、こちらもあわせてご覧ください。

以上、目もくらむ充実の内容でお届けする第67回定期演奏会。チケットはすでに完売となりました。残念ながらご入手いただけなかった方、しかしどう



細川俊夫

かがっかりなさらず! 昨年に引き続き、コンサートを大画面で生中継する「大スクリーン・コンサート」を、今回も実施します。12月7日(木)19:00から、場所は茨城県武道館です。詳しくは、水戸芸術館事務局(TEL029-227-8111)にお問い合わせください。

《矢澤》

細川俊夫 エメール・インタビュー

質問1: 月夜の蓮 は、モーツァルト生誕250周年を記念し、北ドイツ放送(NDR)の委嘱によって作曲され、児玉 桃さんに捧げられています。モーツァルトのピアノ協奏曲第23番第2楽章が曲のモチーフとなっていますが、作曲にあたって、数あるモーツァルト作品の中からこのピアノ協奏曲を選ばれ、児玉 桃さんを独奏者としたピアノ協奏曲という形態にされた、その理由をお聞かせください。

細川:北ドイツ放送局は、モーツァルトの生誕250周年記念として、4人の現代の作曲家に、モーツァルトの協奏曲となんらかの関係を持った協奏曲を作曲するという新作委嘱を与えました。その協奏曲とは、クラリネット協奏曲、ヴァイオリン協奏曲、ピアノ協奏曲、そして声のためのコンサート・アリアです。委嘱の条件は、その新作初演コンサートには、モーツァルトの協奏曲を演奏し、その直後に新作を初演するというものだったのです。したがって、楽器編成も出来るだけモーツァルトの協奏曲に近い編成が求められました。そして私には、ピアノ協奏曲という課題が与えられたのです。

ご存知のように、モーツァルトのピアノ協奏曲にはたくさんの傑作があり、その中のひとつを選ぶというのはたいへんな作業でした。私は、私が特に愛するピアノ協奏曲ということで、第23番(A-dur[イ長調])を選び、その中でも透明感を持ちながら深い悲しみにあふれた第2楽章(fis-moll[嬰へ短調])を、自分の新作との関連を持たせることにしました。

私の音楽の基調音は、多くの場合fis(嬰へ音)なのです。それで特にfis-mollのこの曲には愛着を感じていましたし、何よりこのモーツァルトの音楽の美しさに深く魅惑されていたことが、この音楽を選んだ理由です。そして児玉 桃さんに初演をお願いしたのは、彼女の、気品が高くてとても繊細なピアノが、このモーツァルトにぴったりだと思ったからです。彼女のピアノは、ルツェルン音楽祭ではじめて聴き、そのときはショパンとメシア

ンの演奏でしたが、私が理想としてイメージしていたピアノ演奏に近いものでした。私にとってピアノは、指が織り成す微妙な音色作りの魔法に、特に関心があるのです。その指は夢のようなハーモニーを生み出し、その響きの内から、優しく激しい歌が立ち昇ってきます。そうした児玉 桃さんのピアノリズムは、私の 月夜の蓮 に深い影響を与えています。

質問2: 楽譜を拝見すると、曲の進行に伴って「ためらい」「開花への憧れ」「沈潜/泥の内」といった言葉が表れ、音楽そのものと共に、隠された物語の存在を感じさせます。月夜の蓮 というタイトルに、どのようなイメージや物語が託されているのでしょうか。

細川:私の最近の音楽は、いつもある「物語」を隠しています。20世紀後半の音楽はこうした「物語性」を否定して、音楽の純音楽性を追及するものでした。しかし私は、そうした純音楽に対して、ある疑問を持っています。私の音楽は決して、私の「物語」のプログラム音楽ではありません。あくまで音楽そのものを純化された形で、構築しようとしています。したがって聴衆の方には、その物語を理解して下さる必要はないのです。しかしこの「物語」を、漠然と遠くに感じてくださったら、より私の音楽を身近に、聴いていただけるかとも思っています。その物語は、いつも人と自然との関わり、人と自然、宇宙が交感する関係がテーマになっています。その物語に、私は音楽が人に勇気を与えたり、希望を持ったりする、深い暗示の力を持たせたいと思っています。

このピアノ協奏曲では、ピアノは「蓮の花」なのです。そしてオーケストラは蓮の浮かぶ池(水)を象徴しています。fis(嬰へ)の音がずっと弦楽によってドローンのように響いていますが、それを池の水面の高さ、と想像してください。蓮の花は夜の暗闇の中で、やがてやってくる朝の光と、内からの開花を待ち望みます。激しく開花を望むのです。それを一人の人間の、自分自身の心の奥底からの願い、心の開花、自分自身を実現することへ願いと想像して下さっても結構です。ご存知のように、「蓮の花」は東洋の世界では、仏陀の涅槃への開花を象徴する花なのです。「蓮の花」は、その根を泥沼の奥に張っています。そして水中を通り抜けて、天に向かって開花しようとする。低音は泥の中、中間の音は水中の音、高音は空に響く音というふう捉えて、その音たちを貫いて、「蓮の花」であるピアノは、天に向けての開花を歌おうとするのです。花の願いは、オーケストラとの

激しい交感を経て、少しずつ光の朝に向かってゆきます。

質問3:モーツァルトの旋律は最後の方まで暗示的な形でしか現れず、最後の「夢」の部分でようやく主題がおぼろげに姿を見せません。この曲においてモーツァルト作品はどのような意味と役割を担われているのか、解説していただければ幸いです。

細川:モーツァルトのfis-moll(嬰へ短調)の冒頭の音、cis(嬰八)の音が、私の音楽でも冒頭に響きます。このモーツァルトの曲で、何より特徴的なのは最初のテーマの最後の終止和音が、ナポリタン和音(「ナポリ6の和音」とも呼ばれる変化和音で、半音階的な転調を行う際などに用いられる。)のG-dur(ト長調)で上昇して、ふたたびfis-mollのドミナント(主音から5度上の音である「属音」のこと。ここでは、属音上の3和音と同じ役割をもつ和音を指す。)へ移行することです。私はこのハーモニーの微妙なゆれ動きを、「蓮の花」の心の揺れと捉え、この音楽の和声構造の基礎にしました。

そして最後にかすかに聴こえるモーツァルトの引用は、遠い穢れない無垢な音楽への憧れであり、また美しい芸術(音楽)への夢、遠い記憶とも捉えることが出来るかもしれません。

質問4:初演の演奏会での、この曲への聴衆の反応はいかがでしたか。

細川:初演は、4月にハンブルク、リューベック、キールで行われ、私は最初の二つの都市での初演に立ち会いました。児玉 桃さんの演奏、準・メルクルさん指揮、北ドイツ放送交響楽団の演奏はたいへん素晴らしく、お客さんもたいへん深く聴いてくださって、最後には、会場全体に独特の深い静けさが広がりました。そしてその後熱い拍手があり、たくさんのブラボーができました。コンサート後も、会場の多くの人たちが私を見つけて、あたたかい声をかけてくださいました。

日本人が、モーツァルトという西洋音楽の最も美しい完成された音楽とどのように関わるか、大きな興味を持って聴かれたようですが、何とか重い課題を果たすことが出来たように思いました。

質問5:細川さんの作品は1992年2月水戸芸術館コンサートホールATMにおける演奏会、『磯崎新1960/1990建築展記念コンサート 宮田まゆみ 笠リサイタル』で鳥たちの断章 & およびうつろひが演奏されています。そのときに細川さんは来館されていますが、水戸芸術館そしてコン

サートホールATMの印象をお聞かせください。

細川:水戸芸術館は、親しくしています。建築家の磯崎新さんがお創りになられたということで、音楽会以外にも何度も足を運んでいます。特に私は、最初のオペラを鈴木忠志さんと一緒に創りましたので、そのオペラの打ち合わせにその当時、水戸で演劇活動をしていました、鈴木忠志さんを何度も訪ねているのです。

そして水戸で観ました「リア王」を、私の自分の最初のオペラにしました。私は磯崎さんの建築が大好きですし、水戸であのタワーが見えてくると何かワクワクしてきます。

質問6:水戸芸術館コンサートホールで、初演者である児玉 桃さんと、小澤征爾指揮水戸室内管弦楽団の共演によって 月夜の蓮 が日本初演されることへの期待をお聞かせください。

細川:小澤征爾さんは、私が音楽家を志す最初のきっかけになった少年時代からの憧れの人です。私は少年時代、小澤さんに夢中になり、彼のレコードを集めているうちに武満 徹さんの音楽に出会い、作曲家を志すようになったのです。その小澤さんと児玉 桃さんが、水戸でこの作品を日本初演してくださることに、私は心から感謝をしていますし、今からとても楽しみにしています。私はこの秋から「ベルリン高等学術研究所」に一年間のフェローシップをいただき、ベルリンで生活しています。基本的にベルリンから離れてはいけないうちにならないうちですが、この水戸芸術館のコンサートには、ベルリンから飛んでいく予定です。

児玉 桃 Eメール・インタビュー

質問1:児玉 桃さんを初めて水戸芸術館にお迎えすることができ、嬉しく思います。さて、今回の演奏会で児玉さんはモーツァルトのピアノ協奏曲第23番と、この曲にインスパイアされた細川俊夫さんの 月夜の蓮 を演奏されます。月夜の蓮 は、モーツァルト生誕250周年を記念し、北ドイツ放送(NDR)の委嘱によって作曲され、児玉 桃さんに捧げられています。この2曲の組み合わせ、特に 月夜の蓮 について、初演者としての印象をお聞かせいただければ幸いです。

児玉:細川さんの新しい作品を初演させていただいたのは、大変光栄なことでした。素晴らしい新作を初演させていただくということは、新しい作品の誕生の歴史に関わることで、演奏者にとって特別な体験です。

細川さんから、このプロジェクトについて、2年ほど前にお話をいただき、その後、新作についてのアイデアを少しずつ聞かせていただけてきました。

具体的な音になった楽譜を受け取ってからは、とても楽しみながら、また一音一音を味わいながら、準備を進めました。準備を経てオーケストラとリハーサルを行い、そして聴衆の前で演奏するま

での過程は、新しい作品の誕生に立ち会えた、とても貴重で感動深い体験でした。

細川さんがモーツァルトのコンチェルトの中から1曲を選ばれ、その曲へのオマージュ(賛)として新作を書かれるというのがこのプロジェクトのテーマでしたが、お選びになった第23番のコンチェルトは、私自身、モーツァルトのピアノ・コンチェルトの中でも最も好きで、また、自分自身が一番近く感じる作品の1つです。特に第2楽章の、とても悲しく、寂しいテーマをピアノが語り、そして、その流れの中で少し希望の光が見えてくる中間部分、いつ聴いても、いつ弾いても、深い感動で胸一杯になります。

細川さんが作曲なさった 月夜の蓮 でも、ピアノが同じような雰囲気を持ち、さらに東洋的な神秘さが加わって、詩的に、語りかけているように感じます。

最初のリハーサルの前に、どのように響くのか、本当に楽しみでしたが、想像を超える新鮮さで、細川さん独特の、空間の広さを深く感じる響きが聞こえてきて、その美しさに心より感動しました。そして準・メルクルさんが、作曲家と演奏家の意図を汲みとり、それを一つにまとめあげて、大きなすばらしいハーモニーを作り出して下さいました。

初演の時にも、ドイツの聴衆が、この曲の心に訴えかける神秘的な美しさと、感情の深さに引きつけられ、演奏者と一体になって感じ入っていることが、ひしひしと伝わってきました。

オーケストラの微妙な色彩感や、動きの変化によって、ピアノの音の雰囲気は微妙に変化し、また進化していきます。それを繊細に、しかも細川さんが細かく書いていらっしゃるニュアンスを私なりに解釈して、できるだけ、明確にお伝えできればと、願っています。

質問2:児玉さんは武満 徹を演奏されたり、また最近ではメシヤンのピアノ曲を録音され大いに話題を呼んだりするなど、20世紀以降の作品に積極的に取り組まれています。児玉さんの演奏レパートリーにとって、現代音楽はどのような意味を持つのでしょうか。

児玉:弾く曲を選ぶときは、時代にこだわらず、身近に感じ、弾きたいと言う気持ちになりましたら、レパートリーに入れます。

もっともすばらしい作品は楽譜が自然に語りかけてくるものですが、現代音楽の場合、作曲家の方と直接、または作曲家に近かった人たちと、曲に関して話ができるのは、とても助けになります。

たとえば、最近メシヤンの未発表曲の初演をしました。もっとも故人に近かったメシヤン夫人のロリオさんの助けを得て、理解を深めることができました。

演奏家としては、その作曲家のアイデアとスタイルを、将来の世代に向け、正確に伝える使命が果たせればと、思います。

質問3:児玉さんは小澤征爾音楽顧問とはよく共演されていますが、指揮者・小澤征爾さんについて

の、児玉さんの印象をお聞かせください。

児玉:私は外国で育ちましたが、子供のときから、同じ日本人で、この様な方がいらっしゃることをとても自慢に思い、私たちの英雄として、小澤先生のレコードをたくさん聴きました。先生のような、常に生命と色彩溢れる、人をつよく引きつける演奏ができればと、いつも目標にしています。

演奏家になってから、共演の機会を何度もいただけていますが、その限りのない音楽への熱、パシオン(Passion)と、知りつくしたはずの楽譜に対する新鮮なアプローチ、それに他の人の追従を許さない、先生しか持っていないオーラを、いつも感じます。

また、リハーサルでも、いつもたくさんのことを学びます。先生はいつも、オーケストラやソリストのベストを引き出されるのです。ですから、小澤先生の、オーケストラだけのリハーサルも、機会があればお願いして聴かせていただけていますが、その度に大きなインスピレーションを受けます。

その上、世界の音楽界の頂点に立っていらっしゃるにもかかわらず、いつも回りの人に対する細かい気配りをして下さる暖かいお人柄に、いつも感動します。

あらゆる面で尊敬申し上げている小澤先生と、同じ舞台上に立たせていただくことによって、一生身につくことを数多く得ることができます。

小澤先生と、同じ時代に生きていることは、大変幸せだと思います。

質問4:また、児玉さんは水戸芸術館に来館され、小澤顧問指揮する水戸室内管弦楽団(以下MCO)の定期演奏会をお聴きいただいています。その際のMCOの印象と、水戸芸術館コンサートホールATMの印象をお聞かせください。

児玉:MCOは、水戸でも、パリ(註:2001年の第2回ヨーロッパ・ツアー。パリの会場はサル・プレイエル)でも聴かせていただき、その室内楽的な雰囲気、ファミリーのような温かさに強く印象づけられました。

その特別な個性を、水戸芸術館のコンサートホールが取り巻いています。芸術館のコンサートホールは、空間が十分にありながら、舞台と客席の間の距離を感じさせず、音楽と音楽家を身近に感じられる場所だと思いました。

質問5:児玉さんは今回が水戸芸術館初登場、そしてMCOとの共演も初めてになります。この「初めての出会い」を通じ 月夜の蓮 を日本初演されることへの期待、あわせて水戸の聴衆へのメッセージをお聞かせいただけますでしょうか。

児玉:水戸芸術館で、小澤征爾先生指揮するMCOと共に、モーツァルトと、細川俊夫さんのコンチェルトを弾かせていただけることを、心より、嬉しく、誇りたかく名誉に思っております。

また、この美しい音楽を、聴きにいらして下さった皆様と分かちあうことができ、心より感謝しています。



写真左から;畑中良輔、小泉恵子、倉石 真、久保陽子、谷池重紬子、中村佳代、弘中 孝、山口泉恵

MCO第66回定期演奏会、間近に迫る。館外公演情報も。

11 / 18(土) 19(日)水戸室内管弦楽団第66回定期演奏会

11 / 20(月)水戸室内管弦楽団鎌倉演奏会

11 / 21(火)水戸室内管弦楽団福岡演奏会

このvivoがお手許に届く頃は、リハーサルの真っ只中でしょう。水戸室内管弦楽団(MCO)第66回定期演奏会、どうぞお聴き逃しなく!準・メルクルのインタビュー、ポストリッジからのメッセージ、そして演奏会の内容のご紹介は先月号をご覧ください(まだお読みでない方は、水戸芸術館ホームページからPDFファイルでダウンロード可能です。<http://www.arttowermito.or.jp/nettama/nettamaj.html#vivo>)

さて、今回は、水戸での定期演奏会の翌日、翌々日に館外公演が開催されますので、この場を借りてご紹介いたします。

まず、20日は鎌倉演奏会。鎌倉市芸術館指定管理者サントリーパブリシティサービスグループの主催により、鎌倉芸術館大ホール(客席数1,500)を会場に行われます。MCOは、今や国内はもと

より、ヨーロッパの名だたる文化都市や由緒ある会場から絶えず招聘依頼をいただいておりますが、指揮者やソリストとともに、超多忙を極めるMCOメンバーのスケジュールを合わせるのが大変難しく、いつも実現するとは限りません。したがって、館外公演の回数自体はそれほど多くはなく、今まで水戸以外の関東地方では、東京・サントリーホールで2回(1997年と99年)と足利市民会館で1回(2005年)の計3回しか館外公演を行っていません。今回は鎌倉芸術館(最寄り駅:JR大船駅)からお招きいただきましたので、地元・神奈川のお客様はもちろんのこと、広く首都圏にお住まいの音楽ファンの皆様にぜひお聴きいただきたいと願っています。この贅沢な出演者の組み合わせとプログラムは、日本はもとよりヨーロッパでもなかなか聴けませんよ!

翌21日は福岡に飛びます。財団法人アクロス福岡の主催で、福岡シンフォニーホール(客席数1,871)を会場に開催されます。財団法人アクロス福岡は、多彩な主催事業を展開し、人口140万の九州一の都市・福岡の音楽文化を担っています。MCOの高い音楽性にも早くから着目し、定期的に公演を行ってきました。過去、トレヴァー・ピノック指揮(99年)、若杉弘指揮、ナタリー・シュトゥッツマン独唱(02年)、小澤征爾指揮(04年)と3度公演を行い、いずれも好評をいただいています。今回は、若きマエストロ、準・メルクルの指揮で、MCOの新しい一面をお聴きいただけることと思います。どうぞお楽しみに!

《関根》

聖夜に捧げる奇蹟の音楽

12 / 23(土・祝)クリスマス・プレゼント・コンサート2006

毎年恒例の畑中良輔氏の企画でお届けしているクリスマス・コンサート。今年も、ヴァラエティーに富んだプログラムと出演者で、聖夜にちなんだ心温まる音楽会を皆様にお贈りします。

モーツァルトの宗教曲アリア

今年は、生誕250年ということで、日本でもヨーロッパでもモーツァルトの作品が取り上げられることが本当に多い1年でした。今回のクリスマス・プレゼント・コンサートは、このモーツァルト礼讃の1年の最後を締めくくりにふさわしいプログラムをご用意しました。それは、モーツァルトの宗教曲の傑作の数々です。コンサートの幕開けとして、ヴェスペレ 証聖者の盛儀晩課 K.339 より“ラウダー・テ・ドミヌム”、ミサ曲 八短調 K.427(417a)より“ラウダス・テ(主を讃えよ)”、モテット エクスルターテ・イウビラテ(喜び躍れ、喜びの声をあげよ)K.165(158a)の3曲を取り上げます。出演は、小泉恵子さん(ソプラノ)と谷池重紬子さん(ピアノ)。小泉恵子さんは、1990年の水戸芸術館「茨城の名手・名歌手たち 第1

回」出演、および、第1回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位という実績を皮切りに、国内はもとより国際的にも活動を行う、茨城出身の名ソプラノです。モーツァルトの深い信仰心を源泉とする、優美で天上的な美しさを湛えた旋律とともに聖夜の音楽会は始まります。

信頼のパートナー

第2ステージは、わが国のピアノ奏者の重鎮のひとり・弘中孝さんと、同氏を師とする茨城出身のピアニスト・山口泉恵さんによるピアノ・デュオです。たった1台で音の「宇宙」を作り上げることができるのがピアノです。したがって、そのデュオの演奏となれば、限り無い表現の可能性を秘めている一方で、お互いの音を聴き合い、息を合わせるには至難の技!しかし、厚い信頼に結ばれるこの師弟は、きっとその困難を吹き飛ばし、深遠なピアノの音響世界へと私たちを連れて行ってくれることでしょう。演奏されるのはJ.S.バッハの 主よ、人の望みの喜びよ とリストの ハンガリー狂詩曲 第2番 です。

また、第3ステージに登場する水戸室内管弦楽団の演奏会などで馴染みのヴァイオリニスト・久保陽子さんと前のステージに引き続き出演の弘中孝さんとの間柄にも固い絆があります。おふたりは室内楽やアンサンブルを共に練り上げてきた音楽上のパートナーであるばかりでなく、プライベートでもご夫婦でいらっしゃいます。天才肌で情熱的な久保さんと、それを温かく全身で受けとめる弘中さんというイメージが筆者にはあります。ところで、同ステージはヴェニヤフスキやシューベルトのヴァイオリン作品と、そのオリジナルとして存在する歌曲を同時にお楽しみいただくプログラムです。小泉恵子さんがオリジナル歌曲を久保さんたちの演奏に先立ち披露します。信頼のパートナーたちの演奏を皆様も是非、大切な方と一緒に聴きいただけたらと思います。

新進テノール歌手、そして茨城の名演奏家たち

マスネ、シャルパンティエ、グノー、プッチーニの華麗なオペラ・アリアを紹介する第6ステージには、テノールの倉石真さんが登場します。国内外



写真左から;あひるの会合唱団、鈴木良朝、水戸の街に響け! 300人の《第九》2005、アートタワーみと スターライトファンタジー 2005

の数多の歌い手たちを知る畑中良輔氏が、是非とも水戸のお客様にご紹介したいと称賛する、新進気鋭のテノール歌手です。イタリア・ボローニャでバリデ・ヴェントゥーリに学び、帰国後は日生劇場40周年記念オペラ、ブッチーニの ジャンニ・スキッキ のリヌッチョ役などで好評を博しています。倉石真さんと茨城の歌姫・小泉恵子さんが織り成すオペラ・アリアの世界をご堪能ください。

そして、水戸芸術館のクリスマス・コンサートと言えば、茨城を活動の拠点とする素晴らしい演奏家の方々にもご出演いただいているのが大きな特

徴のひとつです。今回は、先に紹介した山口泉恵さんに加え、20世紀の作曲家・メシアンの壮大なピアノ作品 幼子イエスに注ぐ20のまなざし を5年がかりで演奏していただいている中村佳代さん(第5ステージ)、ルネサンス、バロック音楽を得意とする茨城の名門合唱団・あひるの会(第7ステージ)にご出演いただいております。中村佳代さんのステージでは、いよいよこのメシアン作品の最後を飾っている「愛の教会のまなざし」が披露されます。一方、あひるの会のステージでは、鈴木良朝さんの指揮の下、クリスマス・ソングの定番 オ

ー・ホーリー・ナイト、ヴィヴァルディの グローリア RV589 などが奏され、そして、モーツァルトが最晩年の作で、質朴で伸びやかに、神への想いが込められた、限り無く昇華された傑作 アヴェ・ヴェルム・コルプス がコンサートの締めくくりとして歌われます。

恒例のクリスマス・プレゼント抽選会(第4ステージ)も実施します。どうぞお楽しみに!!

《中村》

アートタワーみと スターライトファンタジー

12 / 2(土)第11回 クリスマス・コンサート
[市内小中学校 芸術館コンサート]

水戸芸術館のタワーや建物、そして水戸駅前などをライトアップする冬の風物詩「アートタワーみとスターライトファンタジー」。その関連企画として恒例の水戸市内の小・中学生が日頃の音楽活動の成果を披露する「クリスマス・コンサート」を今年も開催します。今回は17校、21団体、およそ730人の子供たちが参加し、金管合奏、吹奏楽、合唱、器楽合奏、舞楽などの演奏が行われます。また、水戸を中心に30年以上活動を続けるビッグバンド、ソウルフルユニティがゲスト出演します。

《中村》

【参加校】

【午前の部】

双葉台中(器楽合奏)、石川中(舞楽)、千波中(ミュージックベル合唱)、第五中(合奏・3グループ)、双葉台中(吹奏楽)、第二中(吹奏楽)、石川中(吹奏楽)、千波中(吹奏楽)、常澄中(吹奏楽)、第四中(吹奏楽)

【午後の部】

ゲスト出演 ソウルフルユニティ(ビッグバンド)、五軒小(合唱)、柳河小(器楽合奏)、常磐小(吹奏楽)、五軒小(吹奏楽)、千波小(吹奏楽)、三の丸小(合唱奏)、渡里小(金管合奏)、吉田小(金管合奏)、酒門小(金管合奏)、吉沢小(金管合奏)、堀原小(金管合奏)

この歌声は歓びの翼となり、 世界をやさしく包む

12 / 17(日)水戸の街に響け! 300人の《第九》

今年も水戸芸術館広場にて、《第九》(ベートーヴェン:交響曲 第9番 二短調 作品125より 第4楽章)公演を開催いたします。回を重ねること6回目、2003年からは毎年開催しておりますが、300人を超える大コーラス隊は例年、師走の寒さを吹き飛ばすような大合唱を響かせます。このコーラスを構成するのは、一般公募による参加者と茨城県合唱連盟、水戸市合唱連盟の皆さん。総監督の畑中良輔氏、指揮の鈴木良朝氏を中心とした熱心な指導のもと、9月より7回の練習を重ね本番に臨みます。

独唱は、すっかりお馴染み、ソプラノ・結城滋子さん、バリトン・清水良一さん。昨年に続いての出演となる、アルト・山本彩子さん(以上3名は「茨城の名手・名歌手たち」出身)。そして、今年初めての出演、テノール・布施雅也さん。第15回奏楽堂日本歌曲コンクール歌唱部門第1位入賞、中田喜直賞受賞の経歴を持ち、畑中良輔氏も太鼓判を押す若手実力派です。

また、水戸芸術館オリジナル編成の器楽陣として、エレクトーン・小林由佳さん、佐々木果奈さんと、ピアノ・中村真由美さん、中村佳代さん、そしてティンパニ・尾花章子さんが、フル・オーケストラの迫力を再現します。

私たちが生きていくなかで、それぞれが悩みを抱え、ストレスに押しつぶされてしまいそうになることもあるでしょう。しかし、年にいちど広場にいらっやっや、この歌声に包まれてみませんか。ほんの一時でもその苦しみが和らぐはず。ここで《第九》を聴いた、歌った感動が忘れられないというお客様やコーラス参加者の声は何よりそれを保証します。

《中崎》

【速報:吉田秀和館長、文化勲章受章!】

吉田秀和水戸芸術館館長が、本年度の文化勲章を受章しました。クラシック音楽の分野で文化勲章を受章したのは、山田耕作、朝比奈隆につづく3人目だということです。次号のvivoでは、吉田館長の歩みを振り返る特集を掲載する予定です。お楽しみに! 吉田館長は、『レコード芸術』誌で「之を楽しむ者に如かず」を連載中。また文芸誌『すばる』では7月号

から10月号まで「永遠の故郷」と題するエッセイを連載するなど、活発な執筆活動を展開しています。水戸芸術館のミュージアムショップ「コントロールポアン」にも、『吉田秀和全集』全24巻をはじめ、吉田館長の著作を数多くそろえてあります。この機会にぜひどうぞ!

最近の公演から

SEPTEMBER
OCTOBER



1



2



3



4



5



6



7



8

ミト・デラルコ第9回演奏会(9月9日)

フラウト・トラヴェルソの名匠・有田正広氏を迎えてのモーツァルト・プログラム。2曲の弦楽四重奏曲(狩とへ長調K.590)およびフルート四重奏曲二長調K.285に、モーツァルトの同時代人であるパリのフルーティスト/作曲家、ドヴィエンヌのフルート四重奏曲をはさむ構成。5日前からリハーサルに入ったミト・デラルコメンバーは、《ハイドン四重奏曲集》の中でも明朗な魅力が際立つ「狩」を楽しみ、モーツァルト最後の四重奏曲であるK.590の尋常ならざるテンションに驚きの声を上げる。書かれてから200年以上が経過してなお、モーツァルトの音楽は、演奏者にとっても聴き手にとっても、ときに慄然とするほど新しい。リハーサル3日目からは有田正広氏が参加。もう数限りなく演奏したであろうモーツァルトのフルート四重奏曲を、ミト・デラルコのメンバーと共にあくなきディスカッションを重ねながら、まるで初演する曲であるかのように情熱を傾けて演奏する。そこには「慣れ」という言葉は微塵も感じられない。一方ドヴィエンヌのフルート四重奏曲は、意外にもこれが初めての演奏とのことだが、最初の練習からもう手のうちに入ったかのように融通無碍。かくして、多くのお客様が来場された演奏会は、ほどよい緊張と愉悦が混じりあった楽興の時となった。アンコールはポツェリーニのフルート五重奏曲「イ長調 作品55の4 G.434 よりアレグレット」。なお、翌日10日所沢市民文化センターで同内容の公演、また16日には第9回福岡古楽音楽祭に出演して(会場:あいれふホール)ドヴィエンヌの代わりに本間正史氏を迎えてのモーツァルト:オーボエ四重奏曲を演奏するオール・モーツァルト・プログラムの公演を行った。どちらも満席の盛況!この館外公演の詳細については、担当者のブログ(7ページの「プチ情報参照」)をご覧ください。《矢澤》アンケートから 有田さんのフラウト・トラヴェルソの音色の何と、暖かいこと!いつも感じるのですが、(鈴木)秀美さんをはじめ、皆さんが、本当に、楽しげに演奏していらっしゃるご様子に、こちら、心の底から幸福感が、こみあげてきます。ありがとう。(笠間市:Y.M.さん) オール・モーツァルトでなくドヴィエンヌが加わったことにより今夜のプログラムの興行が深まったと思います(水戸市:T.M.さん) 今晚は本当に「たんのう」しました(水戸市:Y.M.さん) プログラムの有田さんのスペシャル・インタビュー 良い(石岡市:N.I.さん) 今日のK.590を聴いた全ての方は、音楽って何だか判ってしまったのじゃないかな?(水戸市:A.U.さん)

茨城の名手・名歌手たち 第17回(9月30日)

地元に関わりのある優れた音楽家を紹介しようと水戸芸術館開館以来、毎年継続して開催している「茨城の名手・名歌手たち」。第17回を迎えた今年は、鍵盤楽器・弦楽器・邦楽器・邦楽アンサンブルの各部門を対象に4月15日にオーディションを行い、厳しい審査をへて、7人と1組がこの演奏会への出場権を得ました。

今回は、ピアノ(小川瞳さん、小野智恵さん、藤田まどかさん、清水美和さん)やヴァイオリン(牛草葉那さん)といったオーディション参加者も多く、聴く機会も比較的多い楽器に加え、パイプオルガン(長澤順さん)、ハーブ(宮田悠貴さん)、尺八と箏のアンサンブル(初見宗郷さん・佳秋さん)といった聴く機会がけっして多いとは言えない楽器や編成も入り、大変魅力的なプログラムが組まれました。そして、何より出演者の皆さんの、それぞれに個性的で熱のこもった演奏が、ホールにつめかけたたくさんのお客様を沸かせました。

出演者の皆さんが、このステージを機に、さらに成長され、ご活躍されることを願わずにはいられません。そして、またお目にかかれまことを!《関根》

アンケートから 色々な楽器が登場し、普段聴けない楽器が聴けて良かったです。邦楽やハーブは初めて聴いたのですが、とても良かったです。(無記名の方) とっても新鮮でgood。次回も楽しみです。(ひたちなか市:T.K.さん) パイプオルガンを2階から間近に拝見できて、演奏もあって良かったです。(常陸太田市:M.S.さん)

小川さんのリストがとても良かったです。もっとたくさん聴きたいと思いました。(水戸市:S.O.さん) 尺八と箏のお二人の演奏、見事でした。初めて本物の演奏を耳にし、目にして感動でした。また、ハーブの演奏があって良かったです。ああ、音楽は美しく気持ちの良いものなんだなあと感じさせていただいた、素敵な演奏でした。(東海村:Y.I.さん)

渡辺泰人ピアノ・リサイタル(9月3日)

すでにおなじみの「茨城の演奏家による演奏会企画」に、日立市出身のピアニスト、渡辺泰人さんが初登場しました。渡辺さんは、大学在学中の1996年に「茨城の名手・名歌手たち 第7回」に出演し、早くもその才能をここ水戸でも披露しましたが、その後ウィーン、ミュンヘン、ザルツブルクに留学されました。留学先の地で親しみ、初めて理解したというウィーン古典派の作品



1



2



3



4



5



6



7



8

(ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン)と、日本での学生時代から愛してやまなかったスクリャーピンの初期作品を組み合わせ、今までの渡辺さんの音楽生活を振り返り、総括したのが、このリサイタルでした。果たせるかな、それぞれの作品があるべきスタイルでくっきりと弾き分けられ、かつ渡辺さんが作品に寄せる愛情が聴き手をやさしく包み込むような演奏が展開されました。今後もますますご活躍されることでしょう。期待しています!《関根》

アンケートから 音の織りなす世界に浸り、生の演奏会の素晴らしさを再発見いたしました。素敵な演奏をありがとうございました。(東海村:T.I.さん) たいへんすばらしいリサイタルでした。力強さ、優しさを備えたすばらしい演奏でした。(日立市:H.I.さん) 今夏にオーストリアを訪問して、ちょうどモーツァルトウムに行き、その場の雰囲気圧倒されました。それを思い起こさせていただき嬉しく思いました。(つくば市:K.O.さん)

水戸ソリスト室内アンサンブル 第5回定期演奏会(10月14日)

水戸市在住のクラリネット奏者・兼氏規雄さんを中心に県内の気鋭の管楽器奏者たちが一堂に会した演奏会。このような大きな編成の管楽器アンサンブルの演奏会というのは、稀少なものであろう。プログラムは「モーツァルト生誕250年記念」という副題のもとにモーツァルトの「ピアノと管楽器のための五重奏曲(K.452)」、そして編成の大きさから演奏機会の少ない「13楽器のためのセレナード グラン・パルティータ(K.361)」の2曲。ニュアンスに富んだ、息の合ったアンサンブルが聴衆を魅了した。アンコールはモーツァルトの「オペラ ドン・ジョヴァンニ(K.527)」より第1幕のフィナーレの管楽器編曲版。《中村》

アンケートから 「すごい!!」としか言えないほどのうまさでした!自分もあんなふうになれたらなーと思います。本当に上手でした!!(水戸市:K.N.さん 11歳) ピアノ五重奏曲は、岡部(昌子)さんの細部に渡る豊かな表現力が素晴しかった。グラン・パルティータ は、映画「アマデ

ウス」の中で聴いてから最も好きな曲の1つになりましたが、今晚、生演奏で聴くことができ、その優美で甘く、切ないメロディーに酔いしれることが出来ました。水戸ソリストの演奏にブラボー!! これからも兼氏さん率いる水戸ソリストの活躍に期待します。(水戸市:T.H.さん)

井上 修 ピアノリサイタル(10月22日)

シューベルト 即興曲 の静かな足どりからはじまって、リヤードフ 舟歌、グラズノフ 演奏会用大円舞曲 とロシア・ロマンティズムの濃厚な香りを愉しみ、忘我のスクリャーピン(2つの詩曲 作品63とソナタ第9番 黒ミサ)へといたる前半。リヤードフ以降の4曲は、水戸芸術館で行われたリサイタルでの曲目としては、おそらくどれも初登場。スクリャーピンの悪魔的なクライマックスの興奮もさめやらぬ後半は、ショパンの4曲のバラードを書かれた順と逆にたどる旅路。ロマン派ピアノ曲の秘曲・名曲が、井上さんの端麗なピアノによって、鮮やかに輝いた一夜だった。バラード第1番で劇的に本編の幕を閉じたあと、アンコール曲はリヤードフの オルゴール 作品32とショパン:夜想曲 変ホ長調 作品9の2という、これまた秘曲と名曲との心にくい組み合わせ(リヤードフの曲は文字通り、オルゴールそのもののキラキラした音色)。至難なプログラムをみごとに弾ききった井上さんの顔は、完全燃焼の充実感に輝いていた。これからもますますのご活躍をお祈りします!《矢澤》

アンケートから 美しい音色と演奏に誠意が感じられ、とても素敵なコンサートでした。とても感動しました。ありがとうございました(水戸市:C.Y.さん) リヤードフの舟歌がすごく良かった。波と舟のゆったりしたかんじが、心地よかった。バラードも、すごくよかった!!(水戸市:Y.Y.さん)

才能豊かな若手ピアニストと思いました。機会があればまた聞きたいと思いました(水戸市:T.K.さん) すばらしい企画だったと思います。地元縁のアーティストによるコンサートで集客300超(編集部註:実際には「400人超」でした!)...今後もこのような演奏会を期待しています(H.K.さん)

1~2. 茨城の名手・名歌手たち 第17回 3~4. 渡辺泰人ピアノ・リサイタル
5~6. 水戸ソリスト室内アンサンブル第5回定期演奏会 7~8. 井上 修ピアノ・リサイタル

プチ情報 速達

学芸員のブログ、始まる! 水戸芸術館ホームページ内、芸術館各学芸員の個人ブログがスタートしました。とびきり早い情報、フレッシュな生写真、制作の生々しい(?)舞台裏、徒

然なる思いなど、9月末のスタート以来、着実にアップされております。どうぞ以下のURLをご覧ください。
<http://www.arttowermito.or.jp/blog/index.html>



今月の「ネッタマ」はお休みです。

information

チケットに関するお問い合わせ

...水戸芸術館チケット予約センター / 029-231-8000
営業時間 / 9:30 ~ 18:00(月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

...水戸芸術館音楽部門 / 029-227-8118

【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

NHK-FM水戸「芸術よもやま話」金曜日 18:15頃 ~ 15分ほど。水戸周辺 83.2MHz、日立周辺 84.2MHz。

茨城放送「田辺昭雄のちよいマジらじお」内「田辺昭雄のなんだっけおじさん ~ ちよい耳クラシック」毎週金曜日・朝7:20頃から約5分間 水戸周辺 1197kHz、土浦周辺 1458kHz

チケット・インフォメーション 10月28日(土)発売分

会沢明美 ソプラノ・リサイタル

1/13(土)14:00開演

料金(全席自由):一般¥3,500 学生(大学生以下)¥1,000

11月25日(土)発売分

レイフ・オヴェ・アンズネス ピアノ・リサイタル

2/4(日)16:00開演 料金(全席指定):A席¥4,000 B席¥3,000

ちょっとお昼にクラシック6 魅惑の木管アンサンブル

2/16(金)13:30開演 料金(全席自由):¥1,200(ドリンク付)

この演奏会では、託児サービスをご利用いただけます(定員20名)。
中村真由美・中村佳代 ピアノ・デュオ リサイタル

3/17(土)16:00開演

料金(全席自由):一般¥3,000 学生(大学生以下)¥1,500

後藤晴美 フルート・リサイタル

3/24(土)15:00開演

料金(全席自由):一般¥3,000 学生(大学生以下)¥1,500

これからの演奏会・残席情報

○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) x...残席なし 中央...中央
ブロック 左右...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席

水戸室内管弦楽団第67回定期演奏会

12/7(木) 12/8(金) 12/9(土).....完売

クリスマス・プレゼント・コンサート2006

12/23(土・祝).....中央x、左右・裏

ニュー・イヤー・コンサート2007

1/5(金).....中央x、左右・裏

茨城音楽文化振興会 第5回定期演奏会

1/21(日).....自由席

ヴェッセリーナ・カサロヴァ メゾ・ソプラノ・リサイタル

2/14(水).....中央x、左右

10/31(火)現在の状況です。

公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケット
カウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証
(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演も
ございますので、予めお問い合わせ下さい。

固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な12月のスケジュール

コンサートホールATM

水戸室内管弦楽団第67回定期演奏会

12/7(木) 12/8(金) 12/9(土)各日19:00開演

料金(全席指定):S席¥13,000 A席¥11,000 B席¥8,000

水戸の街に響け!300人の《第九》

12/17(日)12:00開演 / 13:30開演(2回公演) 入場無料

会場:広場(悪天候の場合、コンサートホールATM)

クリスマス・プレゼント・コンサート2006

12/23(土・祝)17:00開演 料金(全席指定)A席¥3,000 B席¥2,000

エントランスホール

パイプオルガン プロムナード・コンサート

12/3(日)12:00 / 13:30 12/16(土)12:00 / 13:00

クリスマス・スペシャル

12/24(日)12:00 / 13:30

ソプラノ:栗林瑛利子、バリトン:井口 達、オルガン:齊藤健介

入場無料 演奏は各回20分程度です。

ACM劇場

アートタワーみとスターライトファンタジー 第11回クリスマス・コンサート

12/2(土)午前の部]10:00開演 [午後の部]14:00開演 入場無料

子供たちのクリスマス

聖母幼稚園 12/7(木)午前の部]9:45開演 [午後の部]13:45開演

五軒・柳河・下大野幼稚園 12/14(木)10:00開演

愛恩幼稚園 12/20(水)10:30開演

入場無料

現代美術センター

佐藤卓展「日常のデザイン」

10/21(土)~1/14(日)9:30~18:00(入場は17:30まで)

休館日:月曜日 年末年始12/27(水)~1/3(水)

入場料:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600

中学生以下・65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料

茨城の主な12月の演奏会

有料公演のみ

常陽藝文センター TEL / 029(231)6611

横山幸雄 ピアノの燦めき(地域の子どもたちとの共演) 12/2(土)15:00開演
(問)黒羽 TEL / 029(226)3384

水戸市民会館 TEL / 029(224)7521

茨城大学管弦楽団 第32回定期演奏会 12/16(土)14:00開演

(問)相馬 TEL / 090-8425-0604

新ピアノ協会のピアノコンサート「ロマン派」 12/20(水)18:00開演

ひたちなか市文化会館 TEL / 029(275)1122

ひたちなか市芸術祭 バレエ&ジャズフェスティバル 12/10(日)13:00開演

(問)ひたちなか市洋舞踊協会(大内) TEL / 029(244)9072

ひたちなか市芸術祭 市民吹奏楽団定期演奏会 12/17(日)14:00開演

(問)ひたちなか市民吹奏楽団 TEL / 080-3398-3660

日立シビックセンター TEL / 0294(24)7711

オペラ『アマールと夜の訪問者たち』

12/10(日)13:00開演 / 16:00開演(2回公演)

VIVA!! ピアノデュオコンサート プリムローズ・マジック 12/17(日)15:00開演

日立市民会館 TEL / 0294(22)6481

日立市民吹奏楽団 ポップスコンサート2006 12/24(日)14:00開演

常陸太田市民交流センター・パルティホール TEL / 0294(73)1234

新イタリア合奏団クリスマスコンサート with 千住真理子(ヴァイオリン)

高木綾子(フルート) 曽根麻矢子(チェンバロ) 12/13(水)18:30開演

常陸大宮市文化センター・ロゼホール TEL / 0295(53)7200

「プラハ・パロック合奏団」きよしこの夜~クリスマス名曲の贈り物

12/16(土)16:00開演

ギター文化館 TEL / 0299(46)2457

ロス・トレス・アミーゴス フォルクローレコンサート 12/17(日)15:00開演

ソバホール TEL / 029(852)5881

つくばオペラフィオーレ第9回ガラコンサート 12/1(金)19:00開演

ローマ弦楽合奏団 クリスマスinイタリア 12/8(金)19:00開演

つくば古典音楽合唱団第20回定期演奏会 12/9(土)17:00開演

トリオ ゼフィール コンサート 12/13(水)10:00開演

筑波大学混声合唱団 第31回定期演奏会 12/16(土)14:00開演

第22回つくば国際音楽祭 新イタリア合奏団 12/22(金)19:00開演

鹿嶋勤労文化会館 TEL / 0299(83)5911

クリスマス・スペシャルコンサート 聖夜のトランペット 12/6(水)18:30開演

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ] 2006年12月発行 第121号

編集・発行 / 水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp]

編集 / 水戸芸術館音楽部門(五十音順):佐川真美 関根哲也 中崎美智代 中村 晃

矢澤孝樹(編集長)

DTP / office west

印刷所 / 株式会社あけぼの印刷社

次号は...

新年、みつめて下さい、あなただけの「花」を。